

学力向上に効果のある取組事例

白杵市立野津中学校

②思考力、判断力、表現力等の育成

取組の具体①

【授業形態の工夫】

○ペア・グループ活動の実践

- ・ 1時間の中で必ず1回以上近隣生徒、班、意見の似通ったグループ等、様々な形態で話し合い活動をさせている。
- ・ 教師による机間指導を充実させるため、空き時間の教師がATとして補助に入る。

○生徒指導の3機能の実践

- ・ それぞれ3つの場について、授業中に生徒がどの場にいるのかをその都度意識させる。

※特に、自尊心の涵養が必要な生徒のために、自己存在感を与える場については意識させている。

○ICT機器の有効活用

- ・ タブレットの思考ツールを用いた話し合い活動を仕組んでいる。
- ・ 発表時に視覚効果を狙って資料や画像等を提示させるような取組をしている。

※「文房具のように使わせる」「教師が出来なくても使わせていい」「教師も遊ぶように使ってみる」を意識している。



取組の具体②

【校内研・小中一体教育における研修】

○「表現力」の定義付け

- ・ 言語表現力(豊かな語彙・明確な文章構成・感情表現)
- ・ 非言語表現力(ボディランゲージ・アイコンタクト・声のトーンやボリューム)
- ・ 創造的表現力(芸術的表現・物語作成)
- ・ 社会的表現力(プレゼンテーションスキル・ディスカッションスキル・説得力)

○児童・生徒が「表現力がついた状態」を定義

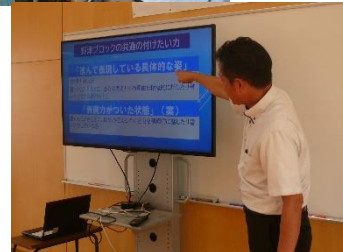
- ・ 表現力がついた状態とは「習ったことをもとに、自分の考えとその理由を積極的に話したり書いたりしている姿」である。

○各教科において「進んで表現している姿」を設定

- ・ 教科の特性を踏まえ、各教科における定義を作成した。
- ・ ロイロノートを用いて全生徒と共有した。

○生徒とともに作る授業

- ・ 授業アンケートで各教科で表現力を育成する場が保障されていたか、生徒が表現力を身につけたと感じているかを検証した。



各教科でめざす、「進んで表現している」具体的な「習ったことをもとに、自分の考えとその理由を積極的に話したり書いたり」	
教科	「進んで表現している」具体的な姿
国語	根拠をもとに話し合いや文章で友だちに自分の考えを伝えよう
社会	さまざまな社会的事象について、歴史・地理・公民的分野の視点を述べて、自らに分かりやすく説明し、伝え合おうとしている。
数	図表、式、グラフ、数式の用語、記号などの数学的な表現方法による